

- ・無線通信での送受信において5Gでは**TDD(Time Division Duplex:時分割複信)**という方式を使用。（キャリア5Gもローカル5Gも同じ方式）
- ・TDDとは無線区間をより効果的に使うために、ダウンリンクとアップリンクで同じ周波数を使用するもので、キャリア5G、ローカル5G共通で時間割を決めて同じタイミングで一斉にダウンリンク／アップリンクの信号を送信することを「同期」という。
- ・同期方式ではアップリンクとダウンリンクの通信比率は「1:4」としている。
一方、**準同期方式では「4.5:5.5」とアップリンク側への割当が大幅に向上している。**
- ・ローカル5Gはアップリンク通信が重要な場面での利用が期待されているため、準同期方式の導入が望ましいとされている。